

# これまでの経緯

| 年度ごとの取り組み内容                                                                                                                                                   | 様子・成果・課題など                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| H 2 1 年度      日本語クラス開催<br>初級・中級それぞれ 3 0 回    一斉授業形式                                                                                                           | 学習者から継続したいという声があり、日本語サークルを那覇市の協力の下、立ち上げる。                                                                                                         |
| H 2 2 年度      日本語クラス開催<br>初級・中級それぞれ 3 0 回    一斉授業形式                                                                                                           | クラス終了後、学習者が日本語サークルに合流                                                                                                                             |
| H 2 3 年度    日本語指導者養成講座 2 期（各 1 2 回）と<br>日本語クラス（初級のみ 3 0 回）開催<br><br>日本語クラスは一斉授業で、養成講座の受講生がサポートに入る。最初はすべてローマ字表記とする予定だったが、ひらがなを覚えたいという声が多く、2時間のうちの半分を表記の勉強にあてた。 | 養成講座と日本語クラスの実施曜日・時間帯が異なったため日本語クラスへの日本人の参加者は非常に少なかった。また日本語クラスはレベルが違いすぎて、一部の学習者には物足りない様子だった。<br>日本語サークルに養成講座受講生も参加し、イベントなどを一緒に企画。サークル名を「どうしぐわー」と命名。 |
| H 2 4 年度      日本語指導者養成講座（1 期 1 2 回）・<br>日本語クラス（3 0 回）・学習教材作成<br><br>養成講座受講生に 1 0 回以上日本語クラスへの参加を義務付ける。日本語クラスは、最初全体に話題を提供し、その後小グループになって、作成した学習教材に個別に取り組む。       | 学習者が回を追うごとに減っていった理由<br>① 日本人のほうが多い日もあり、また対応もぎこちなかったので学習者が萎縮した。<br>② 実際の生活場面を想定して準備した学習教材の内容が難しすぎる初級の学習者もいて、対応に苦慮した。                               |

|                                                                                                                                           |                                                                                                                                                  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>H 2 5 年度      日本語クラス（30回）<br/>ならびに成果発表会開催</p> <p>前年度の反省を踏まえ、養成講座受講者から中心的なメンバーに集まってもらって事前打ち合わせを行い、また日本語クラス開講後もミーティングを重ねて参加型の運営をめざす。</p> | <p>毎回のテーマを設定していたが、それにこだわらず学習者がやりたいプリント（ひらがなや漢字など）を選んで、グループに分かれて取り組む。同じレベルの人たちで固まって話し合ううちに、国籍を超えて連帯感が生まれ、互いに助け合ったり、情報交換するようになり、それを楽しみに来る人もいた。</p> |
| <p>H 2 6 年度      日本語クラス・就活に向けた日本語教室・<br/>日本語指導者向け講演会・成果発表会</p> <p>昨年同様、小グループに分かれて、レベルに合ったプリントで学習</p>                                      | <p>日本へ来て間もない人の参加が多く、時間や曜日、お金などの日常必要な言葉やひらがな表記の学習が主となっている。</p> <p>今後非常時の対応など、情報弱者とならないための学習に取り組みたい。</p>                                           |

養成講座直後の感想

- ★「みんなが声をもち自分として生きられる街」を作っていきたいと思います。
- ★多文化を認め、一人の人間として対等に自分の意見を持てることが大切だと思った。
- ★外国人をとりまく現状や国としての法律・対応をもっと関心をもってみていこうと思いました。

- ★日本に適応しなければ生活できない外国人にとって、ボランティアの必要性を感じた。
- ★可能な限り外国人の視点で「日本語」をとらえられたらいいと思った。
- ★日本語ボランティアは日本語を教えるのとは違ったケアも必要だ。相手が何を求めて日本語教室に来るのかを知るのが大事。
- ★「こちらができることをできる範囲で」「相手にとって何が今後につながるのか」
- ★たのしんでボランティアができたらいいい。
- ★できるかどうか、不安、という声が多数あり。

## 2013年の取り組みについての意見

- ★いろんなレベルのプリントから自分が勉強したいものを選ぶのがよかった。
- ★教室に活気がある。
- ★去年の経験があるので今年はゆとりがでて、落ち着いて対処できた。
- ★教室に来る楽しみ
  - ・学習者の熱心さ
  - ・いろいろな国の話が聞ける
  - ・いろいろな発見がある
  - ・学習者が満足そうなとき
  - ・学習者がもっとがんばりたい、と意欲を見せるとき
- ★気負うことなく、自然体で接したい。
- ★3つの壁＝言葉の壁・行政の壁・心の壁を少しでも低くしていきたい。
- ★教える「力」をもっと身につけて楽しみたい
- ★去年より今年は指導者、学習者、双方が歩み寄って近い感じがした。

★一緒に学んでいる（共育？） 感じがよかった。

★みんな真面目で、こちらが見習うべき点が多い。

★学習者同士もつながりができて、これからの支えになると思う。

★異文化にふれられるこのような取り組みは日本人にも必要なことだ。もっとまわりの日本人にこういう教室があることを知らせたい。

## 今年の日本人参加者の声

★異国の地で生活する人たちの役にたちたい。

★沖縄にいい印象をもってもらいたい。国の人たちに沖縄を宣伝してほしい。

★自分が刺激を受ける。もっと英語がんばろう、という気持ちになる。



# 地域日本語教室に参加する 日本人指導者

NPO法人

沖縄国際人材支援センター (イレスコ)

## はじめに

地域日本語教室は、外国人労働者の日本語学習の場として、地域社会に貢献しています。本センターでは、外国人労働者の日本語学習を支援するため、日本人指導者を募集しています。

指導者の役割は、外国人労働者の日本語学習を支援することです。具体的には、授業の進行を司る、学習者の理解を確認する、学習者の生活や文化について説明することです。

指導者の条件は、日本語が母語であること、地域社会に貢献したいという志があることです。

指導者の募集方法は、本センターのホームページ、地域社会の掲示板、地域のメディアなどです。

指導者の報酬は、地域社会に貢献していることに対する感謝状、地域社会の表彰状などです。

指導者の問い合わせ先は、本センターの事務局です。



地域日本語教室の活動内容

- 日本語の学習
- 生活の相談
- 文化の交流
- 地域の紹介



地域日本語教室に参加する  
日本人指導者

3月25日  
国際交流センター（イレコ）

